



平成27年度

関西大学博物館実習展

11月8日(日)~11月13日(金) 開館時間:10時~16時
関西大学博物館特別展示室(簡文館内)

**入館料
無料**



関西大学博物館

関西大学千里山キャンパス 阪急千里線関大前駅下車 徒歩10分

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 TEL: 06-6368-1171 E-mail: hakubutsukan@ml.kandai.jp

平成27年度

関西大学博物館実習展

11月8日(日)~11月13日(金) 開館時間:10時~16時
関西大学博物館特別展示室(簡文館内)

入館料
無料



あきさい 秋彩 紅葉と落葉の色めぐり

歌人・在原業平は次のような和歌を残しています。「ちはやぶる神代もきかず竜田川からくれなゐに水くくるとは」。秋の色は、我々の心をどのように動かすのでしょうか。美しさ、侘しさ、恋、無常…。

秋彩(あきさい)とは、色うつりゆく秋の物語を意味しています。私たちは、紅葉と落葉による「秋の季節」を、色彩をテーマに選んで展示しています。江戸時代の着色絵本『伊勢物語』をメインとした、色とりどりの絵画や美術工芸資料が見所です。

本展をご覧下さる皆さまには、秋の色を目で楽しむとともに、秋彩を心で感じて下さい。



地獄

死の先には何があるのか。死者の国はあるのか。自分がいくのは、極楽か、はたまた地獄か。ああ、やはり地獄にはいきたくない。悪いことをすれば地獄におちる。裁かれて、罰を受ける。焼かれて刺されてえぐられすりつぶされて…

死後の世界という見えない恐怖に対して、日本人がふくらませてきたイメージはいったいどのようなものなのでしょう?またどのように変化してきたのでしょうか?

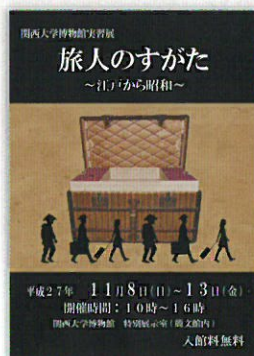
文化の流入や時代の流れで変化してきた、日本の地獄。そして今日の私たちが持つ、死へのイメージ。その源泉をどうぞ、お楽しみください…。



光の二百年 ~あかりと歩む日本人~

江戸時代まで、日本の夜を照らす「光」は小さな灯火(とうか)だけでした。しかし、今からおよそ二百年前、「東洋のエジソン」と呼ばれた田中久重が海外の空気銃に触れたところから「光」の変化が始まりました。

この展示では、田中久重らの考え出した「無尽灯」を日本のあかりの転換点と捉え、その前後の変遷を3つの区分に分けて紹介します。新しく海外から渡ってきたものを上手く適応させながら取り入れてきた、日本人のあかりの歴史を振り返ります。



旅人のすがた ~江戸から昭和~

皆さんはこれまで、どのような旅をしてこられたでしょうか。

わが国における娯楽を目的とする旅は、江戸時代の寺社参詣が始まりであると言われています。なかでも、お伊勢参りは、庶民の間で大人気となり、当時の人々が一生に一度は参拝したいと憧れ、願った旅でした。しかし、歴史をふり返ってみると、娯楽目的ではない一世一代の大旅行へ、人生を賭けた人たちもいました。

本展では、江戸時代から昭和にかけて、旅に関するトピックを4つ選び、旅人の装いや持ち物だけでなく、旅に込めた希望、高揚感なども“旅人のすがた”と捉え、展示、紹介しています。

当時の旅人に想いを馳せながら、ご覧いただけますと幸いです。

関西大学博物館

関西大学千里山キャンパス 簡文館内
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 TEL: 06-6368-1171
<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/>
E-mail: hakubutsukan@ml.kandai.jp

■アクセス 関西大学千里山キャンパス 阪急千里線「関大前」駅下車 徒歩10分

